

小学生の部

最優秀作

内閣総理大臣賞

群馬県長野原町立中央小学校

四年 小林 朋生
こばやし ともき

ぼくはおじいさんの先生になる

最近、となりの家のおじいさんは、散歩の回数がふえました。ぼくが学校へ行く時や友達の家へ遊びに行くときに必ず会います。お母さんに聞いたら、

「運転免許証をへんのうしたからだよ。」

と、教えてくれました。「へんのう」とは漢字で「返納」と書くそうです。

おじいさんは今までチョットの用事でも車を使っていたそうです。でも今は歩いてコンビニとか銀行とか、ゆう便局へ行くそうです。だから一人で歩く姿を見かけるようになったのでしょうか。歩くと、ちょっとときつい遠くへ行

く時はバスや電車を利用するそうです。駅までは歩いて三十分もかかるのにどうして運転免許証を返納したのかな。不便じゃないのかなと感じたので、お父さんに聞いてみたら、

「運転免許証の返納は交通安全の一つなんだよ。」

と、教えてくれました。便利な道具は使い方をまちがえると危険な道具になることもあるそうです。

おじいさんの家から駅までは、きつい坂道や階段や車がたくさん走る交差点があります。たぶん、用事をすませて家へ帰ってくるころには空は暗くなるので、駅まで歩きなれていないおじいさんは、無事に家に、帰ってくるころが出来るのかなと、いつも心配しています。だからぼくは今度おじいさんの、たん生日がきたら、昼間に熱中症にならないようにぼう子と、夜一人で歩く時は危なくないようにピカピカ光る反しやするテープと、かい中電灯をプレゼントしてあげようと思ったので、お父さんとお母さんに相談したら、さん成してくれました。

ぼくはプレゼントの他にも、おじいさんに、してあげたことが二つあります。一つはおじいさんに交通ルールを教えることです。車を運転する交通ルールはお

優秀作

国務大臣・国家公安委員会委員長賞

徳島県吉野川市立学島小学校

一年 本田 千真

じいさんの方が、くわしいけど歩いているときの交通ルールは、ぼくの方が学校の先生や近所の大人の人たちから教わっているの、ぼくのほうがくわしいと思ったからです。二つ目はおじいさんのお友達にも交通ルールを教えてあげたいです。そして、ぼくが大人になったら、みんなに交通ルールを教えることができる仕事をしたいと思います。



みぎ、ひだり、みぎはたいせつだ

「おねえちゃん、きょうはぼくがまえやけんな。」
ぼくは、そういっておねえちゃんをまたずにいえを渡しました。しょうがっこうへいくのにまいにちおねえちゃんとうたいでせんとうをあるくことにしています。きょうはぼくがせんとうのひです。

「かずま、そこでまっとうって。さきにいったらあかん。」
おじいちゃんがさけんているのがきこえるけれど、ぼくはやくがっこうへいきたいのとまらずにゆつくりあるきました。おきなどうろへついたらおねえちゃんとおじいちゃんがおいついてきました。

「かずま、まっとうっていったらどう。なにがあるかわからんけん、さきにいったらあかん。こもくるまがスピードだしてあぶないけん、きをつけてわたるぞ。」

まいにちおじいちゃんはどうがっこうがみえるまでおくっていつてくれます。そして、まいにちおなじじこでおなじことをいいます。ぼくはうっかりしているの、かぞくのみんなからしんばいされています。

「みぎ、ひだり、みぎ。」
おねえちゃんといっしょにいいながら、くるまがきていないかどうかをかくにんしました。ここのどうろはスピードをだしてはしってくるくるまがおおいので、きをつけるようにいわれているところ。みちがまがつているの、くるまがきているかどうかあまりわかりません。

「きてない、わたろう。」
「かずまあかん。」
おねえちゃんは、そういってぼくをとめたけれど、ぼくはおねえちゃんよりさきにきたかったので、わたりました。もうちょっとでわたりおわるときに、くるまがすいスピードではしってきました。ぎりぎりぼくはわたりきました。しんぞうがどきどきしていました。

「カーブミラーにちいさくくるまがうつとつたよ。そんなときはちよつとまっつよ。」
とおねえちゃんにおしえてもらいました。

「こはすぐそこがカーブやけんわかりにくいだろ。よきをつけなあかんぞ。」
とおじいちゃんにもいわれ、さっきのことをおもいだして、きをつけようとおもいました。

がっこうのかえりにおばあちゃんがおむかえにきてくれました。せんろのとおりかたをおしえてくれました。カンカンというけいこくおんがなりはじめたら、しゃだんきがおりてなくてもまたないといけません。これからはぼくひとりでおらないといけないこともあるとおもうので、きちんとしたいです。

おかあさんから、いのちをまもるためにこうつうルールがあるといわれました。みんなのはなしをきちんとまもりたいとおもいます。

おうだん歩どうってすごいな

「お姉ちゃん、ぜんぜん車止まってくれんなあ。」

いっしょに学校へ行っている小学校一年生になったおとうとに、そう言われました。わたしたちは少しせまいみちをわたらないと小学校へは行けません。毎日おくって行ってくれているおじいちゃんが、

「ここは通きんろのぬけみちになつとるけん車も多いしけっこうスピード出すしなあ。」

とためいきをついていました。今も三台車がすごいスピードで通って行きました。

「子ども園のときは、みちをわたろうとしてると、みんなとまってくれたなあ。」

おとうとが右を見ながら言いました。たしかに、そう言われると子ども園に通っているときにちゅう車じょうに行くのには止まっているとほとんどの車が「お先にどうぞ。」

と止まってくれるので、おれいのおじぎをしてわたっていました。

「何で止まってくれんのかなあ。」

わたしはおもわず言っていました。

「きちんと見てわたるぞ。ふらふら歩いてたら車にぶつかるぞ。」

おじいちゃんの声にわたしははつとなりました。ぼうつと歩いていたら、交通じこにあいます。車がきてないときにわたり、線ろで見守りたいのおじさんにあいさつをして、学校の校門の近くまできました。このみちをわたると学校につきます。まっている、車がとまってくれました。おじぎをしてわたりました。「あれ？何で止まってくれたんだろう？」とふしぎに思いました。同じみちなのに、さいしょはとまってくれませんでした。おとうともくびをかしていました。

かえりのおむかえにきてくれたおばあちゃんに今朝の話をすると、

「これがあるのと、ないのではちがうんじゃないかな。通りますってサインだよ。」

わらいながらどうろをゆびさしていました。

栃木県那須塩原市立東小学校

三年 青木真

父との自転車二人旅

「おうだん歩どう！」
思わずおとうといっしょにさけんでしまいました。いえを出たところのみちはおうだん歩どうがありません。けれど、校門の前にはおうだん歩どうがあります。

「おうだん歩どうって通りますってサインなんやな。手を上げてわたるのも、今わたっていますってサインなんやな。どっちも大切なサインやけん、わすれたらあかんな。」

おうだん歩どうってすごいなと話しました。

妹を子ども園にむかえに行きました。おうだん歩どうがありました。わたしたちがおうだん歩どうの前に立つと車が止まってくれました。妹と手をつないで、妹に

「右、左、右。ありがとうございました。」

と教えながら右手をあげてわたりました。車ではきちんとしてシートベルトをしめます。

かぞくのみんなと、交通ルールを話し合って、いのちをまもっていききたいと思います。

も言っていました。

自転車の旅に出かける前に、父がけいさつしよに電話をかけて交通ルールを聞いてくれました。おまわりさんは、「自転車の車道がない道では、原則は車道を走ることになっています。歩道は歩く人をゆう先にして走行して

いですよ。」と教えてくれました。しかし、じつさいに走ってみると、自転車用の車道がある道がとても少ないことがわかりました。

では、どのようにすれば安全に走ることができのだろうかと考えました。まずは、ルールを守ることだと思いません。ルールを守るためには、決まりを知ることが大切です。

ぼくは、自転車でふみ切りを止まらずわたってしまつたことがあります。走っていた歩道に白線がなかったからです。しかし、ふみ切りのあるところは、電車が来ないとわかっていても、必ず止まって左右をかくにんすることを、父から教わりました。それは、交差点や見通しの悪い場所でも同じことだと思いました。

道はばがせまいところ、橋の上など、どうしても歩道を作れない道もたくさんあるようです。だからこそ、歩く人も乗り物に乗る人も、みんなが決まりを知って守らなければ安全に通行することができません。

自転車に乗ることは、とても楽しいです。車では、見つけられなかったお店や公園に行つてみたり、そのお店の人や散歩している人と話ができたりします。学校で習った地図を思い出して、本当にその場所なのか調べるこ

ともしました。そして、なにより、自分で決めた長きよりを完走したとき、とてもうれしかったです。また、父との男二人旅がしたいです。そのためにも、僕はこれからも交通ルールを勉強して、そして守って、安全に自転車を楽しみたいと思います。

千葉県松戸市立六実第三小学校

四年 佐藤 める

弟に教えられた交通ルール

この春、わたしの弟は一年生になりました。これまでは友達と登校していました。そこに今年から弟が加わりました。姉として上級生として弟を安全に学校へ行かせるというせきにんを持ちました。するとわたしのしきいが変わり始めました。友達と登校していた時は家から道路に出る時、横だん歩道をわたる時、道路を歩く時、左右のかくにんなどきちんと意識しきしていなかった事に気づき

ました。弟と一しょに行き始めると、弟の前にわたしが立ち、道路に出る時左右のかくにんをします。道路を歩く時は、一列になりはしを歩きます。友達と話をしている時、前後左右、車や自転車が来ないか注意をはらつていて全然会話が入ってきません。何気なく通つていた通学路は、思つた以上に車や自転車が通つていた事に気づきました。今まで横にならんで会話にむ中なわたしたちを車や自転車の人たちが、よけてくれていたのだなあと感じました。

たくさんめいわくをかけていた事を反省しました。横だん歩道をわたる時、旗ふりの人に、「わたつていいよ」と言われると自分で左右のかくにんもせずに大じょうぶだろうとわたつていました。そんなわたしは弟に、「ちゃんと右左右を見てからわたつて」と言われました。手を上げていなかったわたしは今度は「横だん歩道をわたる時は手を上げてわたるんだよ」と言われました。「お姉ちゃん学校で交通安全のルール習つてないの？ だったらぼくが教えてあげるよ」と言われました。後ろの方から小さな笑い声がありました。わたしははかしくしてはかしくしてたまりませんでした。そのはずかしさの理由は二つあります。一つ目は一年生の弟に四年生のわたしが何で教えられな

いといけないの、おかげで笑われたじゃないと言うはずかしさです。二つ目は、きちんとルールを守つていない自分へのはずかしさです。毎日通る道だし、周りで手を上げて横だん歩道をわたる人なんていない。交通ルールとして手を上げてわたる大切さはわかつていたけれど、もう四年生だし手をあげてわたるなんてかつこ悪いと思つていました。かつこ悪いと言う理由でルールをやぶるそんな自分がはずかしくなりました。

きつとわたしののように、なれた道にゆだんしたり、かつこ悪いと言う理由でルールをやぶつてしまう人もいます。車には車のルール、歩行者には歩行者のルールがあります。どちらもそのルールを守る事で安心安全な社会になると思います。交通安全のルールの大切さを教えてくれた弟に「ありがとう」と言いたいです。これからも弟と一しょに交通ルールを守り学校へ行きたいと思えます。弟が変えてくれたわたしのしきい、弟がわたしに教えてくれた交通ルールの大切さ。みなさんも、もう一度ルールを見直してみませんか。きつとその先には思いやりであふれた町になっているはずですよ。

手を挙げることから始めよう

私は自宅から学校まで公共バスを利用して通学している。通学路にある横断歩道のうち、一か所だけ信号機が設置されていない。登下校時は警備員のおじさんや先生が旗をもって車を停めてくれるので、安心して渡ることができている。そして、車が停まってくれることが当たり前だと思っていた。ほんの少し前まで。

休日の今日、偶然その横断歩道を通った。横断歩道手前に私が立っていても、車は一時停止せずに通過していった。今日はどうして車が一台も停まってくれなかったのだろうか。帰宅後、母にそのことを話すとある記事を見せてくれた。一般社団法人日本自動車連盟が行った「信号機のない横断歩道実態調査二〇一九」の結果が掲載されていた。全国平均一七・一％。この数値は信号機が設置されていない横断歩道を歩行者が渡ろうとしている場面で一時的

止した車の割合だ。つまり、八〇％以上の車が一時停止せずに通過しているのだ。さらに驚きの数字を見つけ、思わず声が出てしまった。

「一三・二％！」

私の住んでいる栃木県では、なんと八七％の車が一時停止していないことになる。今日、車が停まってくれなかったのは、調査結果からすると当たり前だったのだ。

しかし、私はここであることに気が付いた。記事には長野県の一時的停止率が四年連続全国一位であり、二位の静岡県にも大きな差をつけ六八・六％なのである。長野県の一時的停止率が圧倒的に高い理由ははっきりしていないようだが、その要因の一つに歩行者と運転手の双方がお互いを思いやり、そのような大人の善行を見た子供が真似をすることで「正の連鎖」が生まれていると考えられている。また、歩行者は運転手に「停まってください」とお願いする気持ちで手を挙げるなどの意思表示をすることで、お互いが気持ち良く安全に渡ることができているとも言われているようだ。

もう一つ気が付いたことがある。私は横断歩道手前で車が停まるのが当たり前だと思って立っていた。しかし、

神奈川県横浜市立すみれが丘小学校

自分の命は自分自身で

運転手の気持ちになってみると、横断歩道を渡りたいのかわからないからこのまま通過してしまおう、と考えてもおかしくない状況だった。これからは、横断歩道を渡りたいので停まってください、という気持ちを表すために、手を挙げてみようと思う。少し恥ずかしいけれど、命を守るためだと思えば簡単だ。

「お母さんも車を運転する時は今以上に気を付けないとね。横断歩道では一時停止ね。」

この気持ちをみんなが持つと交通事故がゼロになるのかもしれない。そのために、まずは自分が実践し、そして友達や学校のみんなや地域の人も、少しずつ広まればいいなと思った。そのために私に何ができるのか、もっともつと考えていきたい。

私の母は、毎朝、登校する子供たちのために旗ふり活動をしています。そこは、私たちの通う小学校の校区内で一番危険な横断歩道とされる場所です。きつかけは、八年前に京都府の亀岡市で登校中の児童の列に車がつかみ十人が死傷した事件だそう、全国で通学路を点検することとなり、当時校外委員長をしていた母が中心となって旗ふり活動を始めたんだそうです。夏の暑い日は汗びっしょりになって、大雨の日はずぶぬれになって、子供たちに

「おはようさん。」

とあいさつをした後

「右見て、左見て、右見て。確認したら手をあげて渡ろうね。いつてらっしゃい。」

と大きな声をかけながら、黄色い旗で車を停めて、子供たちを渡らせてくれます。

そんな母の影響もあって、道を横断する時は必ず手をあげて渡る習慣ができました。手をあげるのには、「今から道を渡るぞ」という意思をドライバーに伝えるためであり、小学生の私たちを少しでも大きく見せるためでもあるそうです。六年生になった今、手をあげて渡るのははずかしい時もあります。でも、六年生はみんなのお手本にならないければなりません。私を手をあげて渡っているのをまねして、低学年のお友達も手をあげるのを見ると、なんだかほこらしい気分になります。

天候によってはとても大変な仕事である旗ふりですが、母は毎日とても楽しそうです。家では朝から準備に追われて

「あー忙しい忙しい。」

と言っていますが、旗ふりの時は満面の笑み。そんな母には今、悩みがあるそうです。それは、子供たちを横断させるために旗を出しても停まってくれない車があること。横断歩道では歩行者が堂々と渡ることができる場所なので、車は停止しなければならぬルールがあるのに、ドライバーも朝は急いでいるのか停まってくれない時があるそうです。自分の住む町で交通事故があつてはいけないと、

優秀作

文部科学大臣賞

東京都墨田区立画国小学校

二年 糶^{もみ}山^{やま} 香^こ都^と

まもろうよひょうしきと交通安全

みなさんは、自転車をうんでんしますか。自転車にのつてどこへ行きますか。家ぞくや友だちとうんでんしますか。それとも、一人でうんでんしますか。

私は、お母さんといっしょにおかい物やならい事に行く時にうんでんします。お父さんとサイクリングに行くこともあります。

さく年の夏、自由けんきゅうで、どうろひょうしきについて調べました。ひょうしきを調べる前はあまりきょうみをもっていないくて、「生まれ」と書いてある赤いひょうしきくらいしか、いみやどんなことをあらわしているの

いつも母は口ぐせのように言います。

このように、私たちのすみれが丘小学校では、毎朝見守られながら危険な交差点を登校していますが、これから先大きくなったら自分の判断で道路を横断し、自分自身を事故から守らなければなりません。見守られ、時にはしかられながら交通ルールを知り、安全に通学できることはとても幸せなことです。常に確認することを意識して、横断歩道では手をあげて渡ることをこれからも続けていきたいです。そして、自分自身も事故にあわない、「交通事故ゼロの町 すみれが丘」になるようにしていきたいです。

か知りませんでした。町中のひょうしきのしゃしんをとつて調べたり、ひょうしきを作っている工場を見学させてもらったり、ひょうしきやそのいみを調べてくわしくなりました。ひょうしきを見れば、交通量が多いどうろなのか、子どもが多く通るどうろなのか、そうぞうできるようになりました。

みなさんは、自転車のマナーとルールを知っていますか。私は、ひょうしきのいみはりかいできたけれど、自転車のくわしいマナーとルールはまだよく分かっていなかったなので、家ぞくでファミリー自転車きょう室にもさんかしました。「交通安全きょういくセンター」のお兄さんやお姉さんがやさしくせつめいしてくれたり、れんしゅう用のどうろで安全なうんでんのし方をおそわりました。

おそわつたことで一番おどろいたことは、「自転車は、のつていると車の仲間。おして歩くと歩行者の仲間」ということです。それまで、自転車が車の仲間だと考えたこともなかったのでびっくりしました。

みなさんは、「車の仲間」と、いしきして自転車を安全にうんでんしていますか。

これまで、ひょうしきは車がまもるための物だと思つ

ていましたが、ちがいました。本当は、車だけでなく、自転車をうんてんする人や歩行者もルールやマナーをまもらなければいけません。

それから、ひょうしきを調べはじめてから、ひょうしきをまもらない人が目につくようになりました。とくによく見かけたのは「おうだん禁止」のひょうしきをまもらずにどろろをわたっている大人たちです。小さい子どもなら、ひょうしきのいみを分かっているはずの大人がひょうしきをまもらないのは、とてもざんねんだと思います。

かるい気もちで、ルールとマナーをまもらなかったことで、大きなじごがおこることもあります。だから、自分の命もみんなの命もまもるためにも、みんなで気をつけていきましょう。私も、調べたことやおそわったことをわすれずに心がけていきたいです。

愛知県名古屋市立表山小学校

一年 手嶋 勇仁

ぼくのつうがくろ

ぼくはことし、1ねんせいになった。がつこうにいくのはたのしいよ。

コロナのせいで、ぼくはあつい8月もがつこうにいく。いつもよりあるいている人はすくなくて、ほそいみちにはいったら、犬しかあるいていなかった。

でもおうだんほどには、なつ休みのまえとおなじように、まいにちおじさんとおばさんがたっていたよ。

あつい日も。あめの日も。もしかしたら、さむい日も、かぜの日もゆきの日も、かみなりがなっている日もいるかもしれない。

たいから。おとうさんといっしょにおふるに入って、いもうととおとうととあそびたいから。

らいねんはおじいちゃんはいえにりよこうにいきたいから。

だけどたまに、わすれちゃうかもしれない。そのときは、まわりの大人たちにたすけてもらおう。

くるまのうんてんしゅさんも、小さいぼくをみつけてね。ぼくもきをつけるから。

鹿児島県鹿児島市立西陵小学校

一年 峯元 晴輝

どろろのるうる

ぼくは、おかあさんにもものすごくしかられました。こうえんのかえりに、くるまにのっているおかあさんを見つけて、きゅうにとびだしたからです。

「もし、いま、くるまがはしってきたら、はるきはどうなっ

「おはよう。」

「おかえり。」

「いっきにわたっちゃおう。」

「しんごうがかわるよ。」

おじさんとおばさんは、いろんなことをいいながら、いつもはたで、くるまをおせんぼしてくれる。

おじさんとおばさんは、ちいきのボランティアや、こうつうしどろいんさんなんだって。せんせいがおしえてくれた。

ぼくたちがちゃんとがつこうにいつて、ちゃんといえにかえられるように、みまもってくれているんだって。

きょう、おかあさんにもきいてみた。

「おじさんとおばさんがいないときは、どうするの。」

おかあさんは、

「しんごうのいろをよくみて、みぎひだり、もういっかいみぎをかくにんして、それからてをあげて、きをつけながらはやくわたるといいね。」

といった。

いそがしいな。でもぼくはがんばるよ。

まいにちいえで、おかあさんのつくったごはんをたべ

ていたとおもう。」
ときかれ、ほくは、

「けがした。」

といました。すると、おかあさんは、ものすごくこわい
かおで、

「けがだけなら、まだいいけど、くるまにひかれて、しん
でしまうこともあるんだよ。」

といました。おかあさんは、ときどき、こわいときがあ
ります。ほくがいうことをきかなかったときです。でも、
このときは、いままでおこられたなかで、いちばんこわかっ
たです。

よる、おとうさんに、きょうのできごとをはなしました。
そして、もういちど、どろろのるうるのはなしをしました。
いち、どろろがあるときは、かならず、ほどうがあるく
に、しんごうのあるおうだんほうどうでは、しんごうをよ
くみて、わたる。

さん、がっこうのいきかえりにぶざけながら、どろろを
あるかない。

よん、きょうみたいにしてているひとをみつけても、きゅ
うにどろろにとびださない。

香川県多度津町立四箇小学校

一年 宮野 涼也

とまれ

ほくのおじいちゃんは、おみせをやっています。おじい
ちゃんのおみせのまえには、こうさてんがあつて、おばあ
ちゃんがいつも

「どあからとびだしちゃだめだよ。」

と、ほくにいいいます。その、こうさてんではじこがたくさ
んおきています。へいや、かんばんにくるまがぶつかった
り、くるまどくるまがぶつかったりしています。おじいちゃ
んのおみせのどあにぶつかったこともあります。

おじいちゃんのおみせがこわれて、なおすのにながい
じかんがかかりました。そのあいだ、おみせができなくな
りました。でも、おじいちゃんとおばあちゃんは、おこっ
ていませんでした。

「おきやくさんがくるまにひかれなくてよかった。」

ふたりは、おみせがこわれただけでよかったといいま

このよつつのことをかならずまもると、おとうさんと
おかあさんにやくそくしました。

どろろのるうるのはなしをしているとき、おもいだした
ことがありました。まえ、ほくは、おうだんほうどうのしんご
うがちかちかしているのに、はしってわたったことがあつ
たのです。ちかちかのときも、ほんとうは、わたったらいけ
なかつたんだ。あぶなかつたんだなおもいました。

おかあさんは、こどものちかくをくるままでとおるときは、
いつとびだしてくるか、わからないから、ものすごくきを
つけてうんてんしているといっていました。でも、そんな
にきをつけているひとはかりでもないといっていました。

きょう、ものすごくしかられていやだったけど、どろろ
のあるきかたをしっかりべんきょうできてよかったです。

これからは、どろろがあるくとき、きょうきめたよつつ
のるうるをかならずまもります。そして、こうつうじこに
あわないように、じぶんできをつけようとおもいました。

した。

もし、ほくのいえにくるまがつつこんできたなら、ほくは
いやなきもちになります。ほくのだいじなものごわかれ
たら、かなしいきもちになります。じこをおこさないよう
にきをつけてほしいです。

おじいちゃんのおみせのまえのこうさてんは、すこし
まえに、てんめつしんごうきからぴかぴかひかるいちじ
ていしまーくにかかりました。おじいちゃんも、じぶんで
かーぶみらーをつけて、じこがへったようにおもいます。

「ものはこわれてもなおるけど、からだはもとにはもど
らないからね。」

と、おかあさんはいいいます。ほくがおおきなけをしそつ
になったときに、いつもいいいます。

しんごうきがないこうさてんでは、みぎ、ひだりをたし
かめてわたります。くるまもひとも、きちんと」とまれ」。

あんぜんにわたる「ワープゾーン」

ほとんどのいえは、小学校のすぐ近くにありまます。歩いて区分ぐらいです。でも、道がせまくて、歩道がなくて、交差点が多いです。いえの前の道をわたるとき、いろんな方こうから車が来て、こわい思いをなん回もしました。しんごうやおうだん歩道がないので、どこをわたればいいか分かりません。一年生のときは、お父さんやお母さんがついて来てくれました。二年生からは一人で行けるようになって来ましたが、わたしは一人で歩けませんでした。交差点からはなれていて、車がよく見えるところをえらびました。わたるところのスタートとゴールには、ちようど金ぞくのAMIがはめられていて、目じるしになります。ぼくは、わたるところに「ワープゾーン」という名前をつけました。ワープゾーンまではまっすぐ歩きます。ワープゾーンに来たら、車が来なくなるまでまちまます。

た。わたしは、車にはねられてとばされてしまったようだ。

「ちか、大じようぶか。」

おとうさんとおかあさんがとんでかけよって来た。

それから、車のお姉さんとわたしのかぞくで、びよういんをさがした。日曜日だったから、どこもあいていなかっただけど、しばらくしてやつと見つけることができた。

「右のひじのすりきずだけのようですね。しばらくは、ようすを見てください。」

と言って、びよういんの先生は、ひじのきずにくすりをぬつてくれた。

わたしは、四人きようだいの一ばん上のお姉さんだ。わたしがじこに、あつたとき、おとうさんは下から二ばん目のおとうとを、おかあさんはまだ赤ちゃんの妹をチャイルドシートにのせていた。だから、わたしがじこにあつたのを見ていながった。どうせんたてもものかけから車がきたことにも気づかなかった。

その日による、おかあさんとねる前にやくそくした。

「ちか、よばれたからつて、とびださないでね。車がこないかじぶんの目でよくたしかめて。右左そしてもう一回右を見てわたるんだよ。じぶんのいのちは、じぶんでまも

二年生になって、小学校よりもとおいスーパーにおつかいに行くようになりました。妹にもワープゾーンを教えてあげて、いっしょにわたっています。これからもワープゾーンをつかってあんぜんにわたりたいと思います。

鹿児島県鹿児島市立西陵小学校

じぶんのいのちはじぶんでまもる

「ちか、こつちにおいで。」

わたしの大すきなおとうさんのよぶこえ。わたしは、うち園のおとうとの手をひいて、パンヤからおうちの車にむかつてはしった。

「ドン。」

気がついたら、わたしは、たおれてた。

「大じようぶ、大じようぶ。」

車にのつていたお姉さんが、車からおりてかけよってき

るしかないんだよ。」

「大きなげがじゃなくてほんとうによかつた。」

おとうさんは、いつもよりつよくだきしめてくれた。

このじこにあうまでは、あまりなにも考えずにあいていたが、このじこにあつてからいろいろとちゆういするようになった。これまでは、しんごうが青にかわつたら、おうだんほどうを友だちとおしゃべりしながらわたつていた。今は、車がこないか右左見てそしてもう一回右見てわたっている。おうだんほどうをわたつていいるあいだも、友だちとおしゃべりせずに、きゆうに出てくる車がいなにかちゆういしながらわたつていいる。おかげでそれから、じこには、一どもあつていない。

ときどきわすれそうになるけど、一年たつてもきえないうち右ひじのきずをさわるたびに、じこにあつた日のことやおかあさんのあのこつばを思い出す。

「車がこないか、じぶんの目でよくたしかめて。じぶんのいのちは、じぶんでまもるしかない。」

よそくすることの大切さ

私の住む町は、自てん車じこがとても多いです。かさやスマホをかた手に持って、自てん車にのっている人をよく見かけます。これはあぶないので、ぜったいにやめたほうがいいのですが、どうしてやめないのでしょうか？じこをおこしてからではおそいのにと、私はいつも思っています。

「じゃああなたは、きちんと交通ルールをまもれているの？」

と母から聞かれて、私はドキッとしました。

ようち園の時から自てん車にのっている私ですが、交通ルールをきちんと知っているかといわれると、自しんがありません。そこで私は、母と一しよに交通ルールについてべん強をすることにしました。

町には色々な道路ひょうしきがありますが、それまで

あまり深く考えたことはありませんでした。しかしひょうしきには、一つ一つきちんとした意味があつて、自てん車も知っておかないといけないものがたくさんあることを知りました。たとえば、「止まれ」と書かれたひょうしきをよく見ますが、これがあるところではかならずいったん止まるひつようがあります。ほかに、自てん車は車と同じ左がわを走らないといけません。自てん車同士で広がって走ってはいけないし、もちろん二人のりもきん止です。

このように、交通ルールには色々なきまりがあります。交通ルールをまもっていれば、交通じこはなくなるはずですが、どうしてじこはおこるのでしょうか？

私が考える理由は、きつと大じようぶだろうと思う気持ちがあるから、じこはなくなるのだと思います。私も自てん車にのっている時に、後ろをかくにんしないで道をまがることがよくあります。とくに、母の後ろを自てん車で走っている時は、母がかくにんしてくれているから大じようぶだろうと思つて、そのまま母について行きます。するとあとで、母にめちやくちやおこられます。もし、私がかくにんしないで道をまがつてしまうと、車や自てん車とぶつかつてしまうかもしれません。ぶつかつた私

がたおれて、近くににいる人にあたるかもしれません。一つのじこが、大きなじこにつながるかのうせいがあります。

大事なことは、よそくすることだと思います。もしかすると、青しん号でも車がつっこんでくるかもしれません。自分がとつた行動が、大きなじこにつながるかもしれないと考えることが、大切だと考えます。交通ルールをまもることは、当たり前のことです。その当たり前の前行動をとつて、よそくもすることで、交通じこはへらせると思いました。

千葉県松戸市立六実第二小学校

車にもソーシャルディスタンスを!!

ぼくは大人になったらスポーツカーに乗りたいです。でも最近、あおり運転のニュースを見るとふ安な気もちになります。運転が上手にできなかつたらクラクションをならされたり、いやがらせをされたらこわいからです。

家ぞくで出かけた時、とをりを走っている一台の車の後にびつたりとくつついている車がありました。これがテレビで見えるあおり運転なんだと思つたら、まきこまれるんじゃないかと思つてとてもこわかったです。お父さんが速度をおとして、その二台の車からはなれました。二台の車は見えなくなりましたが、事がおきていないか心配いでした。

あおり運転をなんでもしてしまうのか、車の中で話しました。お母さんは、イライラしたり、いそいでいると、そういう事をしてしまうんじゃないかと言っていました。お父さんに自転車に乗っている時の気もちを聞かれました。友だちの家に行く時、忘れものをしてしまつていそいでいた時の事を思い出しました。イライラもしたし、スピードも出してしまつていました。自転車をこぎながら、歩いている人がじゃまだなあと思つてこいでいました。お父さんに、車も自転車もいっしよなんだよと言われて、ぼくはドキッとしました。ぼくがいそいでいた時にスピードを出していた事は、歩いている人をこわがらせたのかも知れないからです。

自転車に乗る時は、いそがず、あわてずにまわりを見な

が楽しい気もちで乗りたいです。家ぞくで車に乗っている時に、お父さんお母さんがイライラしてしまった時は、ほくが楽しい話をしてあげて、みんなで笑って車に乗りたいです。

運動がとくいな人、にが手な人。話をするのがとくいな人、にが手な人。運転がとくいな人、にが手な人。色いろな人がいると思うけど、みんな楽しい気もちで車に乗ってもらいたいです。そしたらきつと車もソーシャルデイスダンスを守って運転ができると思います。

徳島県美馬市立脇町小学校

三年 星野 南奈

自分の手で

ある日、学校がおわって、車で帰っているときでした。車のなかで、お母さんとお兄ちゃん、お話ししていると前から反たいを走る青いトラックの車からビニールぶく

ろがたくさん落ちました。すると、お母さんが、道路のはしに車を止めて

「車に気をつけて、拾ってきて。」

と言ったので、わたしとお兄ちゃん、車をおりて車が来ていないかをかくんにんして、ビニールぶくろを拾いました。拾っていると、青いトラックの車の人が来て

「ありがとう。」

と言ってバイバイしました。車にもどると、お母さんが、

「ありがとう、ちょうど車が通らなくて、よかった。」

と言いました。家に着いて、宿題もおわってつくえで絵を書いていると、

「さて、問題!!あのビニールぶくろを拾ったのは、何ぜでしょう?」

とお母さんがクイズをだしてきました。

「パンクするから。」

とわらって、お兄ちゃんは言いました。わたしは、

「あのまま、おいておくとゴミになるから。」

と自しんまんまんに言いました。答えは、なんだろうと絵を書いていたの手を止めて、お母さんを見ました。

「ハハハハ。パンクはしないよ。でも、そうだね、あのまま

ま拾わず、おいておくとゴミにもなるね。」

とわたしは、ヤッターとうれしくなりました。

「もう一つ、あの大きなビニールぶくろがもしも通って

きた車の前のまどに、はりついたらどうなる?」

「見えなくなる。」

とお兄ちゃんとわたしは、いっしょに言いました。

「そうだね、それで、ほかの車とかにぶつかると、交通じこになる。その交通じこを二人は、ふせいだんだよ。」

わたしは、そう聞いて、心がドキドキしました。

「自分の手で、交通じこをふせいだんだ。」

もしもあの時、拾わずにいたらと思うとこわくなりました。

和歌山県智辯学園和歌山小学校

四年 早川 真妃 呂

新しい自転車と交通安全

先日、私は新しい自転車を買ってもらいました。自分が

と、うれしくなりました。自転車は、おもちゃとちがつて、道を走る乗り物だから、正しく選はないといけないと知ることができました。

母が、

「ヘルメットも小さくなっていたから、新しく買おう。」

と言うので、私は、

「もう四年生だから、ヘルメットなんかいらないうよ。」

と言いました。ヘルメットなんてかっこ悪いし、転ぶこともないから、必要ないと思ったからです。でも、母は、

「大人でも、本格的に自転車に乗る人は、必ずヘルメットをかぶるよ。事故にあった時に、頭を守れて、死なずに済むこともあるから、自転車に乗るときは、必ずヘルメットをかぶりなさい。」

と聞いてくれませんでした。そのかわり、自転車の色に合わせて、黒にオレンジの模様が入っていて、形もカッコいいヘルメットを選んでくれました。そのヘルメットをかぶって自転車に乗った自分を想像すると、大人っぽくカッコ良くて、自転車に乗るときは必ずヘルメットをかぶろうと思いました。

小学校に入る前から自転車に乗っているから、今まであまり考えた事がありませんでしたが、自転車は、車みたいにめんきよはいらなければ、交通ルールをきちんと守らないといけないし、もし事故になったら、自分だけでなく、相手にも大ケガをさせてしまう可能性もあります。町では、かざし運転をしている人や、スマホや本を見ながら自転車に乗っている人もいます。車にひかれたらひ害者ですが、ひ害者にも落ち度がある場合も多いと聞きます。私は、速度や右左折時のかくにんなど、自分ができる限りの注意をして、安全に楽しく自転車に乗るよう心

人もいたことがわかった。交通事故で死んでしまう人がこんなにも多いことにとでもおどろいた。交通事故死というものは、病気ではなくふ通に生活している人達が、ちょっとしたはんだんまちがいでおこってしまうことで、誰にとっても身近な死ぼう原いんだと知った。そして、事故で生きたこった人は、加害者として生きていかななくてはいけないのだと気づいた。

私の考える交通事故は車同士、車と歩行者、車と自転車という三つがすぐに思いうかんだ。そして、すべて私がひ害者になっている場面だった。でも、最近では自転車保険というものがあると聞いた。自転車と歩行者の事故が問題になっているからだそう。自転車と歩行者、どちらも私と関係しているではないか。もしかしたら、私も加害者になる可能性があるということだろうか。少し不安になってきたため自転車と歩行者の事故例を調べてみた。必ずしも歩行者が死んでしまうわけではない様だった。歩行者とぶつかった自転車の人が死んだ例もあった。ますます不安になってきた。ほんの十秒のタイミンクのずれがあれば事故にあわなかったんじゃないか？少しスピードを落としたら止まれたんじゃないか？こんなことで、人

がけています。

静岡県浜松市立三方原小学校

四年 細倉 千寿

ここからはじめよう

「あぶない!!」

何度この声を聞いただろうか。スーパ―のちゅう車場、家の前の道路、犬のさん歩と中。言われるたび、ドキッと足が止まる。きつと自動車近くを走っていたからだろう。お父さん、お母さんの声はとても大きく、その声量にビックリして身がちぢこまってしまふ。

私が今まで交通事故にあうことなく生活できているのは、両親の見守りがあつたからだと思う。お父さんお母さんは、「運転手からは見えにくいからあぶないんだよ。」と理由を教えてくれるけれど、運転をしたことがない私からしたら、全く理かいてきないことである。

調べたところ、去年の全国交通事故死者数は3215

生が台なしになるなんて後かいてもしきれないと思う。おじいちゃん、よく「くかもしれない」と思うようにしなさい。」と言っている。それは、相手が「止まらないかもしれない。」曲がつてくるかもしれない。」など、自分に不利な考えをもつことで、対処することが出来るからだ教えてくれた。私はついつい「止まってくれるだろう。」「ゆずってくれるだろう。」と自分に有利な考えをしてしまふけれど、それは間ちがいだと学んだ。

交通ルールを学び守ること、ゆずり合う気持ちを大切にすること。ニュースを観てどんな事故が多いか知ること。いつか自分の身に起こることかもしれないときき感をもつて生活していこうと思う。まずは、時間と心によゆうをもつことで、急がず、ゆとりをもって、行動しようと思う。

みんなヘルメットをかぶろうよ

ぼくは、自転車に乗る時、ヘルメットをかぶっています。お母さんがいつもかぶりなさいというさく言うからで、急いでいかぶらなかつた時、後ですごくおこられます。

だから、今までは、お母さんにおこられないために、仕方なくかぶっていました。

ぼくは、ヘルメットは大切な頭を守ってくれるものを知っていますが、なぜそんなにお母さんがおこるのか、わかりませんでした。

この前、友達が自転車で遊びに来ました。友達はヘルメットをかぶっていないで遊び、持ってもいなかったです。ぼくは特に気にしないで遊び、とても楽しかったです。

でも家へ帰ると、お母さんは友達にヘルメットをかぶっていないなかつたことが気にいらなかつたみたいで、ぶつぶつぶ言っていて、そのうちヘルメットをかぶっていない友

達とは遊んじやダメと言いはじめました。

ぼくはそれはひどい、お母さんの言っている意味がわからないと、おこりました。

するとお母さんは、冷蔵庫に入っていたとうふをビニールぶくろに入れて、ヘルメットの中に入れました。そしてそのヘルメットをいきなり落としました。ぼくは、

「ああ、とうふがつぶれちゃう。」

と思いましたが、とうふはつぶれずに、そのまま残っていました。

お母さんは、とうふを指さして、

「これはこうちゃんの頭、頭の中のうみそと同じだよ、ヘルメットをかぶっていると、ちゃんと頭が守られるんだよ。」

と言いました。

ぼくは、なるほど〜と思い、お母さんがうるさく言う意味がよくわかりました。

それから友達にも話をして、友達もすっかりヘルメットをかぶって遊びに来るようになりました。

四年生までは、毎年、交通安全教室がありました。警察官や交通指導員さんが自転車は車の仲間だから、みんな

もりつばな運転手なんだよ、しっかり交通ルールを守らないといけないよと、正しい自転車の乗り方を教えてくれました。

ぼくは、今は信号をしっかりと守っているし、止まれではしっかりと止まっています。

でもお母さんの運転する車に乗ってまわりを見ていると、大人は自転車の乗り方がとてもあぶないなあと思います。

成長すると、みんな忘れちゃうのかなあ。

ぼくも大人になると、忘れて、あぶない乗り方しちゃうのかなあと不安になります。

みなさん、自転車は車とぶつかると、自分がケガをします、歩行者とぶつかると、歩行者の命をうばってしまうこと

もあります。

とても便利だけど、乗り方によっては凶器になる、あぶない乗り物ということを意識してください。

そして、子供のころ習った交通ルールを思い出し、しっかりと守りましょう。

みんな、大切な頭を守るヘルメットもかぶりましょう。

福井県越前市武生南小学校

父の交通事こ

父が仕事中に交通事こにあったという電話がかかってきた。母は、命のき険がないかと聞いたが、病院では答えてもらえなかつたらしい。母は、ちよつとご用事ができたからと言って出かけて行った。

それから3か月の間、母は父の病院と仕事場を行き来し、その間に私と姉の顔を見て、また出かけて行った。

私は、泣いた。毎日泣いた。父がいない。母がいない。でも、姉は泣かなかつた。三日後に病院に行った。包帯でぐるぐるまきの父は、私には父と感じられなかつた。声も目もすべて父なのに。そばによれなかつたし、怖くて、怖くて、ここでも泣いた。姉は泣かなかつた。

母が1日だけ家に帰ってきた。うれしくて、ずっと母についてまわつた。せつかく母がいるのに、姉は母に体を休めてほしいとだけ言つて、あまり近くにやらず、私にもそ

うするように言った。私はあまり姉の言うことを聞かずにいた。母がいない間も、ずっと調子に乗っていつもより姉の言うことを聞かなかったが、姉は、それでもおこらずに、私のわがままに付き合ってくれていた。だから、この日も同じように言うことを聞かずにいた。とつぜん後ろから姉の泣き声がひびいた。

「お母さんまで倒れてしまう。こんなのいやだ。交通事故なんてきらいだ。相手の人もきらいだ。事ここにあうお父さんもきらいだ。無理するお母さんも、言うことを聞かない一翠もみんなきらいだ。」

あまりにも急でびっくりして、私はまた泣いた。上を見上げたら母も泣いていた。

「ごめん。泣くこともできなかったね。」
それだけ言った。

まだ、姉は小学生だった。それでも、いろんなことをがまんし、今考えれば母の役わりをしないといけないと、いつもよりずっと私の面倒も見てくれていた。

さみしかった。こわかった。つらかった。悲しかった。青空を見てもきれいだと思えなくなった。友達と話をしても、自分だけ別の世界にいるような気持ちだった。姉

和歌山県田辺市立田辺第二小学校

五年 長江 梨央

交通事故が起きないための工夫

わたしは、前に、自転車に乗っているとき、交差点の角で左右を確にんするために止まっていると、横から来たおばちゃんが、

「そこあぶないで」

といました。言いかたがきつかったので、びっくりして少しこわかったです。それに気づくとわたしは、「こんなあぶないところにおったんや、ごめんさい」と思いながら、後ろに下がりました。そのときわたしは、曲がってくる車とぶつかりそうになっていました。帰ってくる時、知らないおばちゃんに注意されるなんて初めてだったので、ドキドキしながら帰りました。帰って来てから、おばあちゃんにそのことを言おうかなと思っただけ、落ちこんでいて、ショックでいえませんでした。夕方、お母さんが仕事から帰って来て、注意された時のようにきょうを説明すると、

はたまっていた気持ちをはき出した。お父さんの体は本当にもどる心配だ。私達の事を、分かってくれるのかな。私も本当はずっとお母さんと一しょにいたい。

とにかく、三人でたくさん泣いた。ひとしきり泣いたあと、なぜか三人で笑った。

交通事故には、加害者とひ害者がいるということしか想像できなかった。でも、交通事故は、本人だけでなく大切な人みんなを事ここにあわせてしまう。わが家は、まわりの方にめぐまれ、「ふつう」がもどってきた。今は「いろいろあったね。」と話せるようになった。でも、もう二度と交通事故ここにあいたくないと思う。もう二度とだれも、交通事故ここにあわせたくないと思う。

車にもっと早く気づけていたらよかったと分かりました。わたしの家の前の交差点に「とまれ」の表示が地面に書かれています。「どうしてだろう」と思ったので、考えました。「とまれ」と書いている場所は、周りが見えにくい所に書かれています。とまらず進んでしまうと、交通事故が起きやすくなります。

他にも、カーブミラーも同じ働きをしています。カーブミラーは、曲がり角などにもあります。けど「とまれ」の表示とはちがってふつうでは、見えない所が見えて、交通事故が起きにくくなっています。

このように、町には、交通事故が起らないための工夫がたくさんあります。けいさつは、交通ルールを作り、パトロールしてくれています。わたしたちも学校で教えてもらったルールや約束があります。でも、交通事故が起きないための工夫がどんなにたくさんあっても、そのルールを守らない人がいたら、交通事故が起きて意味がありません。だから、けいさつは、ルールを守っていない人がいないかパトロールしてくれているのです。

おばちゃんに注意されたときは、びっくりして、落ちこんでしまったけど、今は、そのおばちゃんが注意してくれ

てなかったら、交通事故が起きていたかもしれないので「注意してくれてありがとう」と思います。

これからは、「とまれ」の表示やカーブミラーなどをしっかり見て、交通事故が起きないように気をつけたいと思いました。

福岡県宗像市立自由ヶ丘南小学校

六年 伊賀崎望い が さき のぞみ

私に出来る事

「のんは、あの信号の無い所の横断歩道は使いよるんか？もし使ったら、別の大きな道から信号のある横断歩道を使いなさい。」

仕事から帰ってきた父は、私の目の前に来るなりそう言いました。朝、父が車で仕事に向かっている途中、信号の無い横断歩道から中学生の子が飛び出して走り去って行ったそうなのです。幸い父は、ふだんから安全運転を心

「お父さん達も十分気をつけるから、のん達もとにかくあぶない道を通ったり、飛び出したりしないように。車に気をつけなさい。」

父にそう言われましたが、困った事がありました。友達の家遊びに行く時、その信号のない横断歩道を通らなくてはなりません。気をつけるのはもちろんですが、他に何か無いだろうか、と考えました。そして以前、道徳の授業で見た紙しばいの事を思い出しました。すごく良い事だな、と思った事を覚えていたので、私もまねをしました。

それからしばらくして母に

「のん、横断歩道で止まってくれた車におじぎしてるの？」

と聞かれ、私は

「そっだよ。止まってくれてありがとうって。」

と答えました。たまたま止まってくれた車の人が母の知り合いで母に伝えてくれたそうです。すごくうれしそうに伝えてくれたよ、と母も笑顔で話してくれました。止まってくれてありがとう、という気持ちが伝わっている事が分かって、私もうれしくなりました。

これからも、安全運転をしてくれる人達に感謝のおじ

がけている人なので、すぐに止まる事が出来たそうですが、とてもこわい思いをしたそうです。

「この前、立ち当番であの横断歩道に立ってたけど、特に朝は子ども車もすごく多いし、あぶないのよね。特に時間ギリギリになって来てた子は、左右の確認もしないでわたったからこわかったわあ。」

母もみけんにしわを寄せて、父の話にうんうんうなずいていました。車を作る会社で働く父は、常々私達に車は便利だけどおそろしい物になるといふ事を話してくれました。事故でケガをしたり、亡くなってしまったりする人はもちろん、その家族や友達、大切な人達の様々な物をうばいます。また、事故を起こした人も、ずっと真面目に生きていても唯一犯罪者になってしまいう可能性がある事、それが交通事故だと父は言います。

「もし、お父さんやお母さんが悪くなくても、人をひいてしまったら警察に行かないといけない。そうになったら、のん達はどうする。」

そう父に聞かれて、私は何も言えませんでした。考えたくもありません。加害者もまた、家族など大切な人達の様々な物をうばう事になるのです。

ぎを続けていきたいです。

鹿児島県霧島市立陵南小学校

六年 黒丸茉莉音くろ まる まり ん

運転をやめる勇氣

「あいたたた、いたいよ。夢のようだ。」

これは、ドライブレコーダーに残っていたひいおばあちゃんの言葉だ。私のひいおばあちゃんは、先日交通事故を起こした。事故の原因は、ひいおばあちゃんが道路の右側を車で走っていたからである。

お母さんやおばあちゃんは、

「もう、年だから、運転免許は返さんとね。」

と言っていて、半年後には運転をやめるつもりでいた。そのため、免許がなくても生活できるように環境を整える準備を始めていた。

その矢先の事故―。

「もっと早くに運転をやめさせていれば。」
とみんな後悔している。

ひいおばあちゃんは、お腹をいたがっていたので、お腹の中が傷ついているかもしれないと、ドクターヘリで大きな病院に運ばれた。よく日、急変したひいおばあちゃんは、今も命が危ない状態が続いている。

ドライブレコーダーには、事故を起こすまでの運転も残っていた。すると、真ん中に線が引いていない所は、右側を走ったり左側を走ったり真ん中を走ったりする姿が映っていた。エアコンやラジオのそう作が分からない様子も映っていた。その映像を見たおじいちゃんは、

「将来、自分達が年を取ったらドライブレコーダーを付けて時々運転をチェックしてくれ。たぶん自分ではきちんと運転できているつもりだろうから。」

とお母さんに言っていた。ひいおばあちゃんの車にドライブレコーダーはついていなかったが、一度もチェックしたことはなかった。

この事故の前に免許を返納できなかったのは、ひいおばあちゃんが生活しているのは、バスや電車がいない所で車がないとグランドゴルフや買い物、病院や温泉に行

宮城県聖ドミニコ学院小学校

六年 昌浦 花怜

ハンドルを握る人の責任

私は小学校へ毎日、母の車で通っています。今まで事故にあうことなく、母は安全運転です。車に乗っていて、自転車がすぐわきを通り過ぎたり、横切ったりすることがあり「危ない」と思うことが時々あります。兄は自転車通学をしています。帰り道、自転車同士がぶつかるという事故にあいました。曲がり角で、兄は一時停止をしていたのですが、反対から来た自転車で正面からぶつかるといいう事がありました。

夜ごはんを作っていて母は、兄からの「事故にあった」との電話をうけ、あわててかけつけたそうです。幸い、兄は足をすりむき自転車のハンドルが少しこわれただけでした。相手の人もケガがなくて良かったです。相手がスピードを出していたので、止まっていた兄を見つけて、ブレーキをかけても間に合わなかったそうです。大きな事故に

けなくて生活に困るといのが一番大きな理由だ。ひいおじいちゃんもまだ運転している。だけど、今回の事故と同じ後悔をしたくないのでみんなひいおじいちゃんに運転をやめるよう説得していくことにした。

「いつまでも、お正月やお盆にみんなが集まって楽しくごはんを食べようね。これからも毎年たん生日にはケーキを持ってお祝いに行くからね。まだまだ元気で長生きしてね。」

みんなが悲しんだり苦しんだりするような事故を起こさないためにも、早めに運転をやめる決断をすることが必要だと思う。生活を守ることも大事だけどそれ以上に命を守るの方が大切だと思うからだ。

ならず本当に良かったです。

家で毎日のように「車に気をつけろよ」と父が自転車で出かける兄に言っているのを聞いていました。まさか自転車同士の事故があるなんて、考えていなかったのが家族で、改めて交通安全について話し合いました。車を運転する父母は、交通安全を心がけるのはもちろん、歩く時には周囲を確認して色々な考えられることを想像していなければならぬということをお話しました。そして自転車に乗るときは、車だけではなく、歩いている人にも気をつけなければならぬことです。

自分自身がケガをするだけではなく、自転車は車と同じで、凶器になるということも、忘れてはならないと思います。テレビで自転車と歩行者がぶつかって亡くなったというニュースをよく見ます。「とても恐ろしいことだ」と思いました。

私はまだ自転車で出かけることはありませんが、中学生になったら、学校や塾へ行く時など自転車に乗ると思います。その時にはルールを守り安全運転をしたいと思っています。

ハンドルをにぎることは「事故をおこさない」という責

任を持つことなのだと思います。大切な家族を悲しませないようにみんなが、責任を持ちハンドルをにぎる社会になってほしいです。